

第94回

トラック運送業界の景況感（速報）

平成28年4月～6月期

平成28年4月～6月期の業況は、非製造業の業績に伸び悩みがみられた。これまで好調であった訪日外国人旅行者の需要が鈍り始め、国内の消費関連需要も停滞したことなどが影響したとみられる。さらに、中国経済の鈍化や、6月以降円高が進行したことで、輸出産業を中心にマイナス影響を与えた。

このような状況において、トラック運送業界の4月～6月期は、運賃水準及び輸送数量ともに悪化となり、営業収入、営業利益及び経常利益も悪化した。

その結果、景況感の判断指標は▲40.7となり、前回（▲30.9）から9.8ポイント悪化した。なお、来期の見通しとなる景況感の判断指標は、海外景気、円高、国内消費等の改善見込みは薄く、荷動きの早期回復が期待されない懸念から、今回より3.7ポイント悪化し、▲44.4の見通しとなっている。

平成28年8月8日

公益社団法人 全日本トラック協会

1. 今回（平成28年4月～6月期）の状況

① 概況

平成28年4月～6月期におけるトラック運送業界の景況感は「好転」とした事業者は10.0%（前回13.2%）、「悪化」とした事業者は45.4%（前回39.6%）で、判断指標は▲40.7となり、前回（▲30.9）から9.8ポイントの悪化となった。

② 一般貨物

一般貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が41.7%、「増加」とする事業者が15.4%で、判断指標は▲30.9となり、前回（▲23.6）から7.3ポイント悪化した。営業収入は「減少」とする事業者が40.0%、「増加」とする事業者が21.6%で、判断指標は▲23.9となり、前回（▲16.0）から7.9ポイント悪化した。営業利益は「減少」とする事業者が38.2%、「増加」とする事業者が20.9%で、判断指標は▲22.5となり、前回（▲8.6）から13.9ポイント悪化した。

③ 特別積合せ貨物

宅配貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が40.0%、「増加」とする事業者が15.0%で、判断指標は▲30.0となり、前回（▲3.0）より27.0ポイント悪化した。営業収入は「減少」とする事業者が30.0%、「増加」とする事業者が15.0%で、判断指標は▲20.0となり、前回（12.1）よりも32.1ポイント悪化した。営業利益は「減少」とする事業者が35.0%、「増加」とする事業者が10.0%で、判断指標は▲30.0となり、前回（▲9.1）よりも20.9ポイント悪化した。

宅配以外の特積貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が40.8%、「増加」とする事業者が14.2%で、判断指標は▲26.5となり、前回（▲25.5）から1.0ポイント悪化した。営業収入は「減少」とする事業者が38.7%、「増加」とする事業者が22.4%で、判断指標は▲18.4となり、前回（▲14.5）から3.9ポイント悪化した。営業利益は「減少」とする事業者が34.7%、「増加」とする事業者が24.4%で、判断指標は▲10.2となり、前回（▲5.5）から4.7ポイント悪化した。

④ 運賃・料金水準

運賃・料金水準は一般貨物▲7.0（前回▲3.0）と4.0ポイント悪化、宅配貨物は0.0（前回15.2）と15.2ポイント悪化、宅配以外の特積貨物は▲4.1（前回18.2）から22.3ポイント悪化となっている。

⑤ 実働率等

実働率は▲26.5（前回▲17.8）と8.7ポイント悪化、実車率は▲24.1（前回▲16.2）となり、7.9ポイント悪化となった。

雇用状況（労働力の過不足）は60.9（前回72.2）と11.3ポイント低下し、不足感が弱くなった。採用状況は▲8.0（前回▲1.6）で6.4ポイント減少し、所定外労働時間は▲16.2（前回▲9.4）と6.8ポイント減少している。貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）は▲12.8（前回▲5.1）で7.7ポイント減少となった。経常損益は▲16.1（前回▲1.3）となり、14.8ポイント悪化となった。

⑥ 規模別及び取扱い品目別、地域別

事業者の規模別では、大規模事業者は▲21.8（前回▲10.9）と▲10.9ポイント悪化、中規模事業者は▲45.0（前回▲32.1）となり、12.9ポイント悪化、小規模事業者は▲41.8（前回▲38.2）と3.6ポイント悪化となっている。

一般貨物における主な取扱い品目別については、消費関連貨物は▲29.4（前回▲15.6）と13.8ポイント悪化、建設関連貨物は▲52.7（前回▲55.4）と2.7ポイント改善、機械関連貨物は▲43.4（前回▲23.9）と19.5ポイント悪化しており、その他貨物は▲46.7（前回▲37.9）と8.8ポイント悪化している。

一般貨物について業界の景況感を地域別にみると、北海道、近畿、九州は水準を上げているが、それ以外の地域は水準を下げている。

2. 今後（平成28年7月～9月期）の見通し

① 概況

平成28年7月～9月期の見通しについて、業界の景況感の判断指標は▲44.4で、今回から3.7ポイント下げる見込み。

② 一般貨物

一般貨物について、輸送数量はほぼ横ばい、営業収入、営業利益はやや悪化の見込みである。

③ 特別積合せ貨物

宅配貨物について、輸送数量、営業収入、営業利益ともに改善の見込みである。

宅配以外の特積貨物について、輸送数量はわずかに悪化、営業収入、営業利益は悪化の見込みである。

④ 運賃・料金水準

一般貨物はやや低下の見込み、宅配貨物はほぼ横ばい、宅配以外の特積貨物はやや低下の見込みである。

⑤ 実働率等

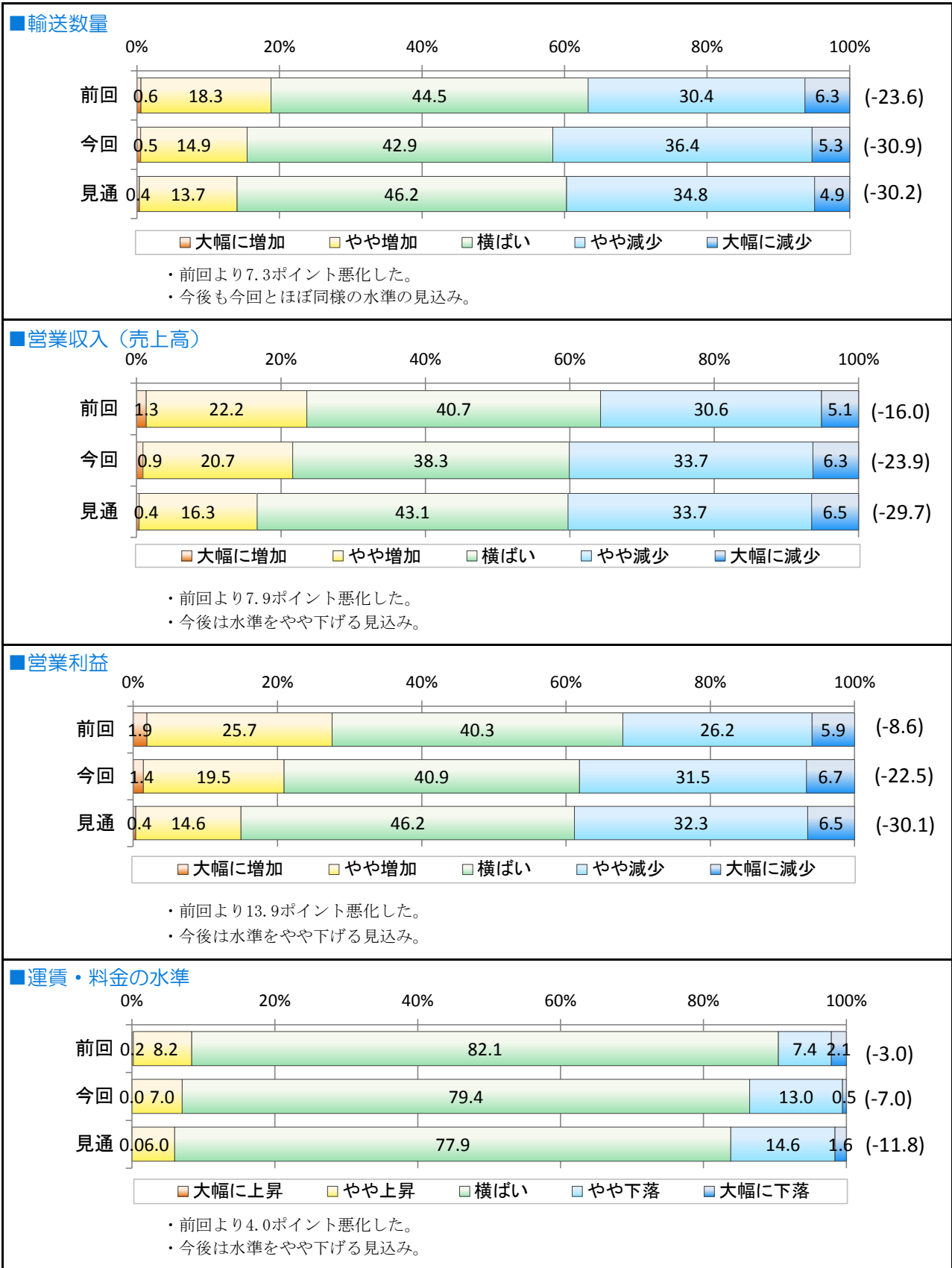
実働率はほぼ横ばい、実車率は僅かに改善の見込みである。雇用状況（労働力の過不足）は指標の水準を上げ、不足感が強まる見込みである。採用状況は、ほぼ横ばいの見込みである。所定外労働時間、貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）はほぼ横ばい、経常損益は指標の水準を下げる見込みである。

⑥ 規模別および取扱い品目別、地域別

事業者の規模別では、大規模事業者は悪化、小規模事業者においてはやや悪化、中規模事業者においてはほぼ横ばいの見込みである。

一般貨物における主な取扱い品目別では、機械関連貨物はほぼ横ばい、建設関連貨物、その他貨物は水準を僅かに下げ、消費関連貨物は水準をやや下げる見込みである。一般貨物における地域別では、中国、四国がやや水準を上げる見込みである。

3. 一般貨物の概況



【調査の概要】

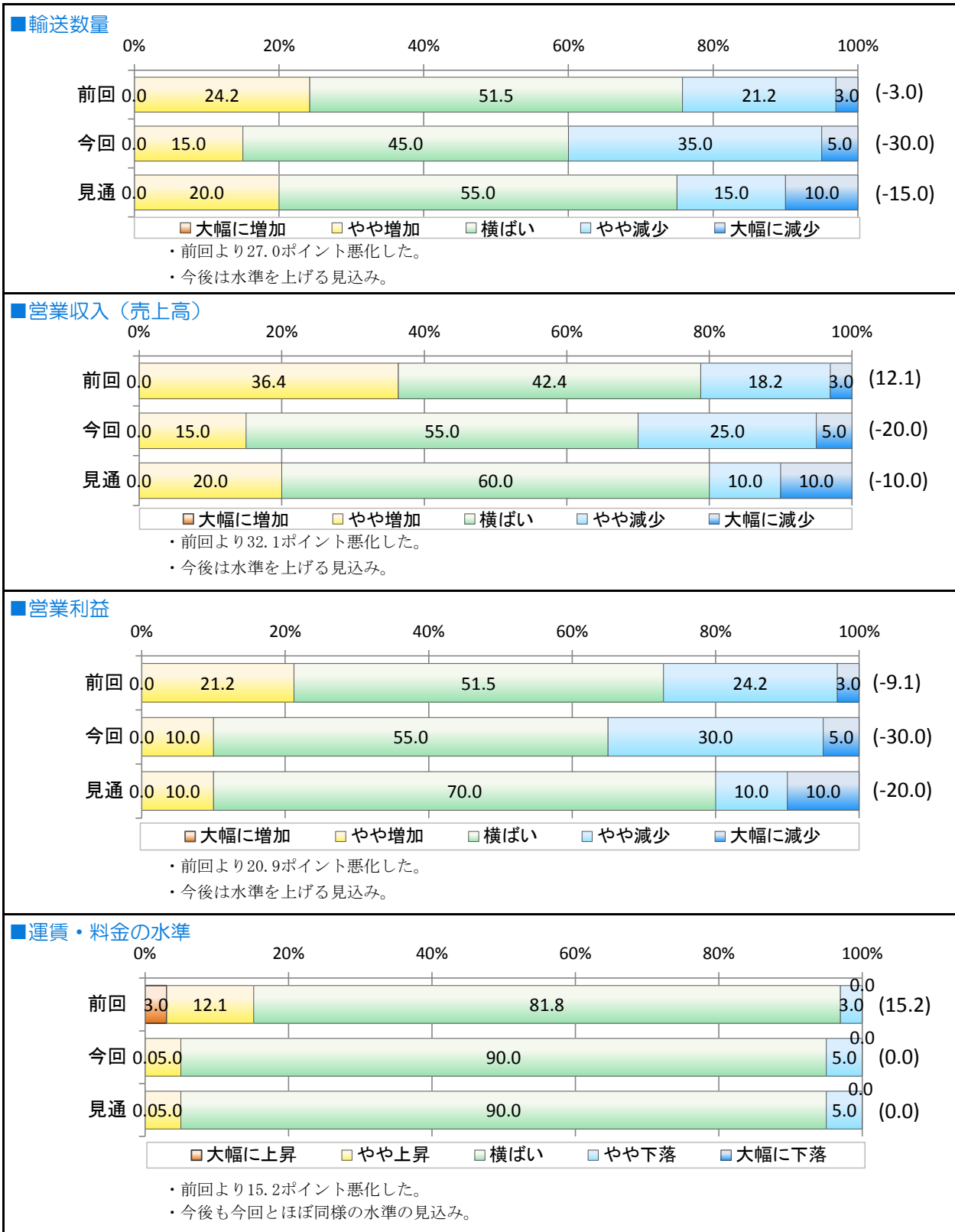
平成5年3月より開始、以降3カ月ごとに実施。第94回調査は、平成28年7月1日に、モニターに対して調査開始。平成28年8月1日回収分までを集計。

特積	一般	回答事業者全体
57	567	585

※一部回答事業者の重複あり

4. 特積貨物の概況

① 宅配貨物



(注1) 各グラフの上段は前回(H28.1月～3月期)の状況、中段は今回(H28.4月～6月期)の状況、下段は今後(H28.7月～9月期)の見通しを示す。いずれも前年同期比を集計している。

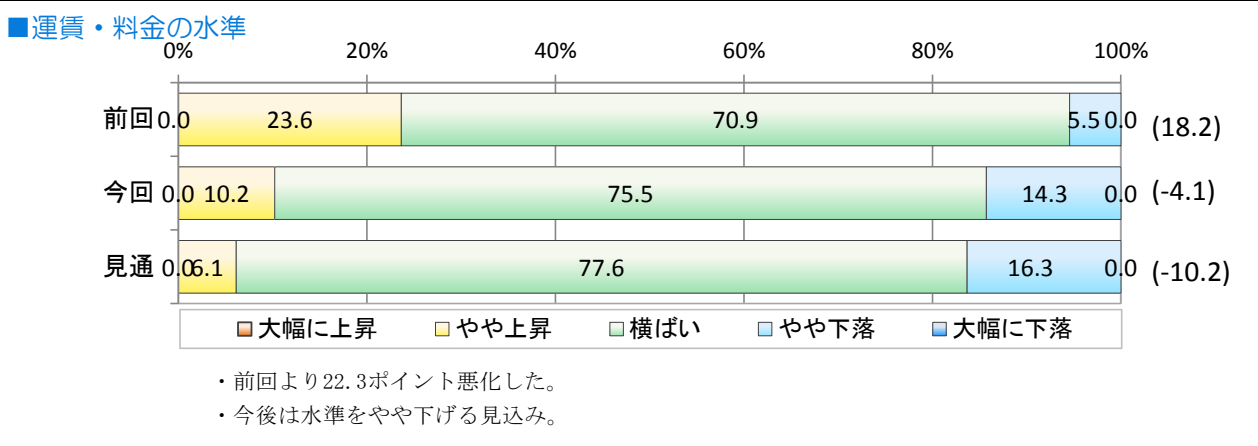
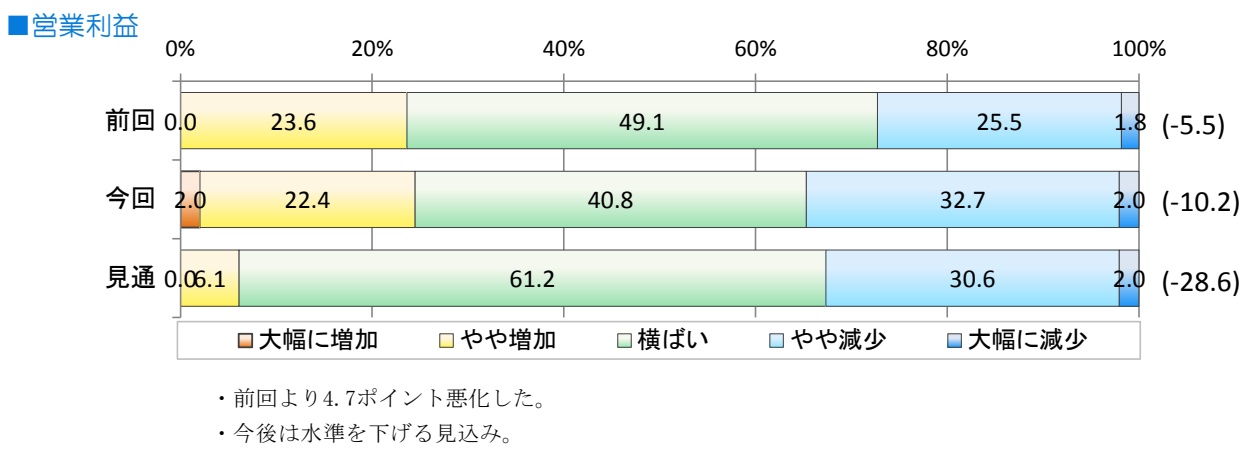
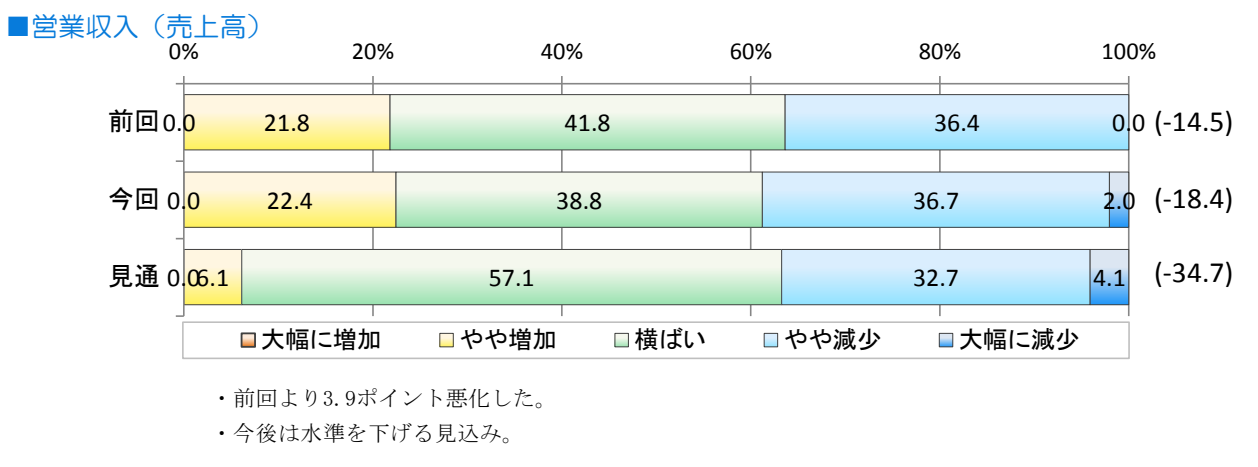
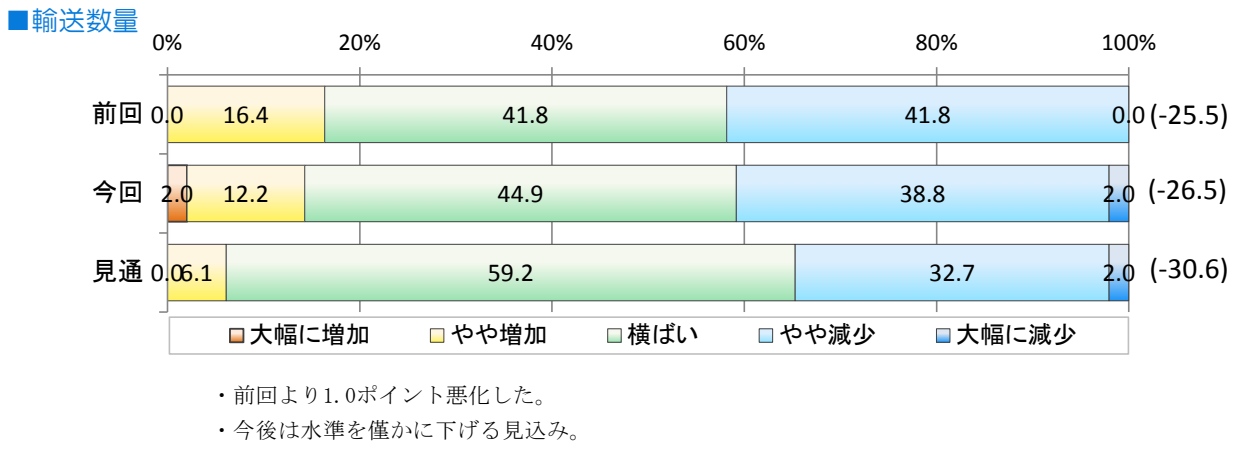
(注2) 各グラフの構成比は四捨五入のため、合計が100にならない場合がある。

(注3) グラフ右のカッコ内は業況判断指標。指標は、各設問の回答に対し、大幅に増加・上昇・好転、労働力不足+2、やや増加・上昇・好転、労働力不足+1、横ばい0、やや減少・低下・悪化、労働力過剰-1、大幅に減少・低下・悪化、労働力過剰~-2の点数を与え、1事業者当たりの平均を100倍することにより算出している。

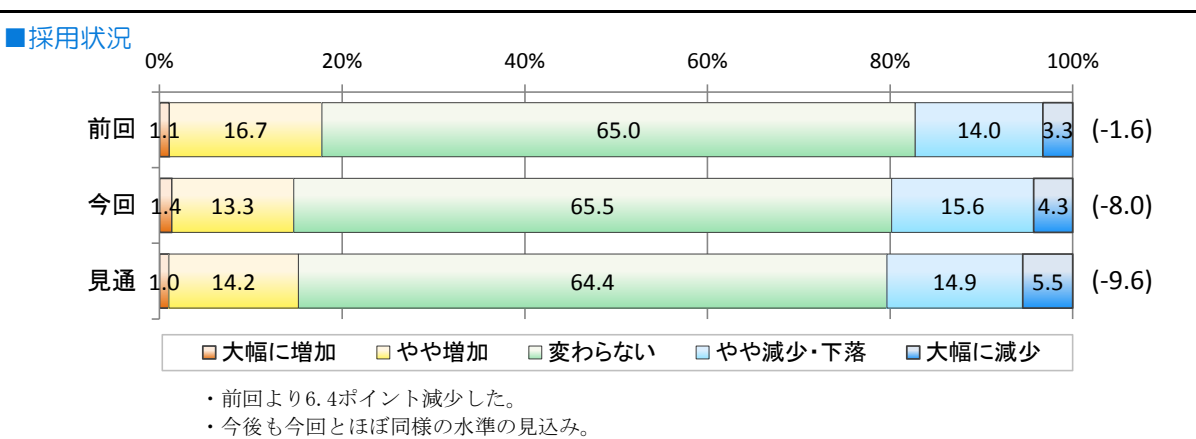
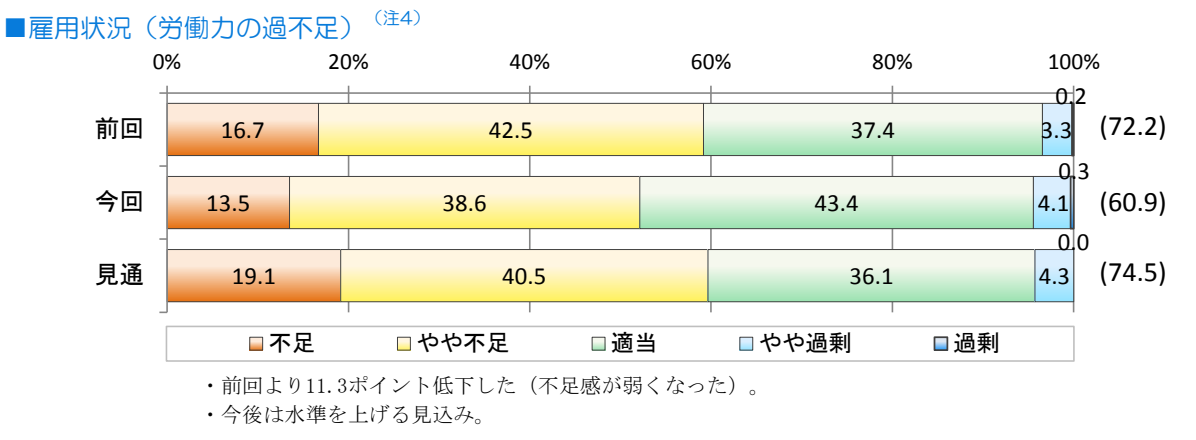
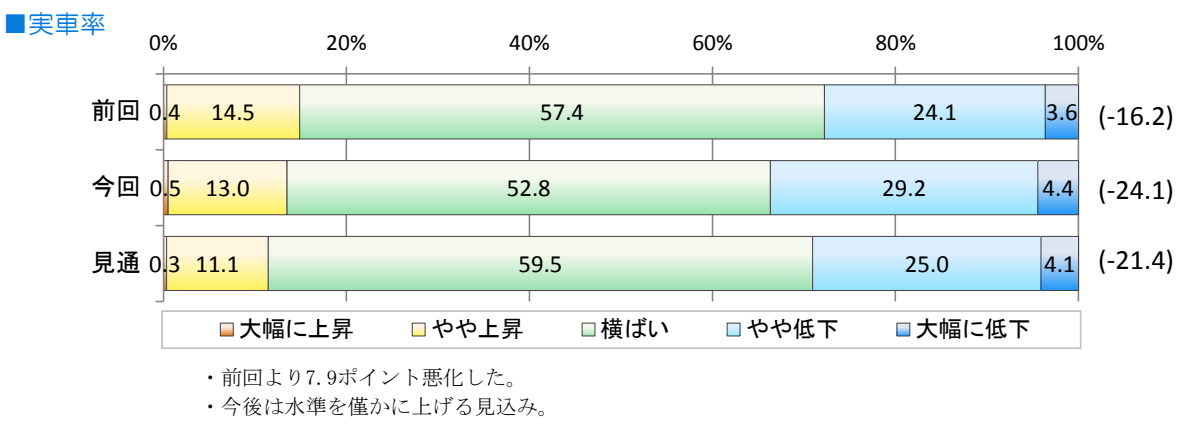
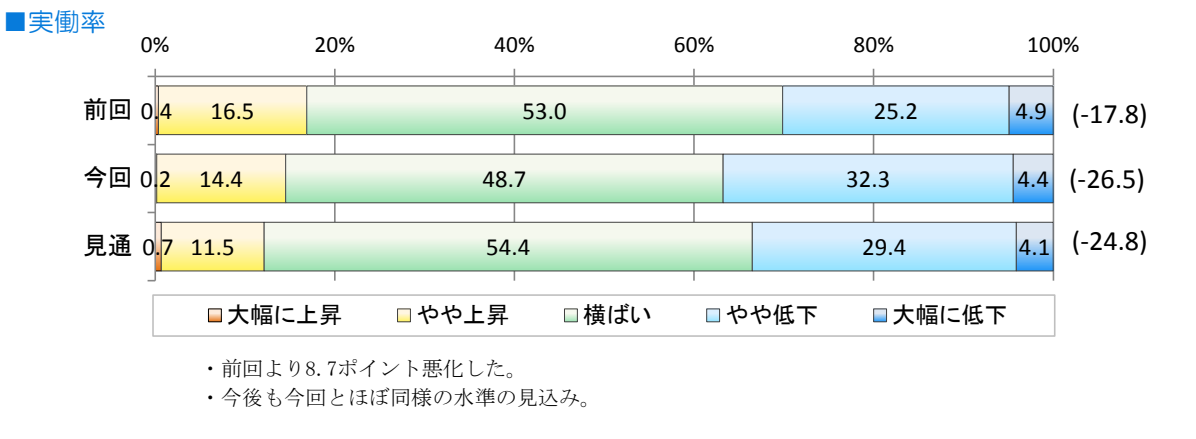
A (設問Aの回答者数) = a1+a2+a3+a4+a5 (設問Aの選択肢1～5の回答数の和)

指標 = {(+2×a1) + (+1×a2) + (0×a3) + (-1×a4) + (-2×a5)} ÷ A × 100

② 宅配以外の特積貨物

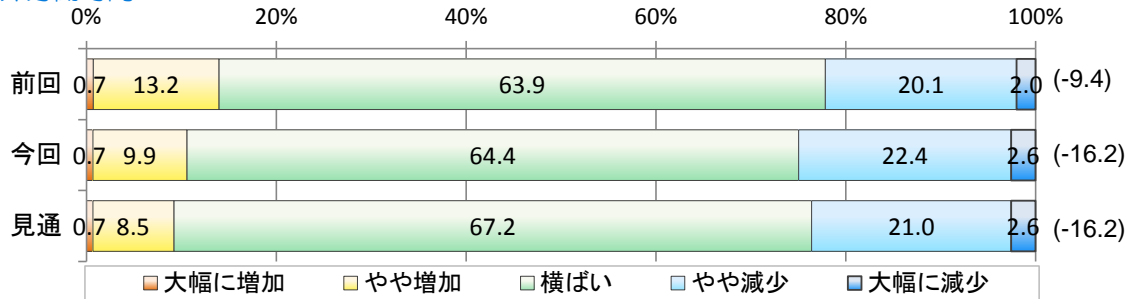


5. 共通の概況



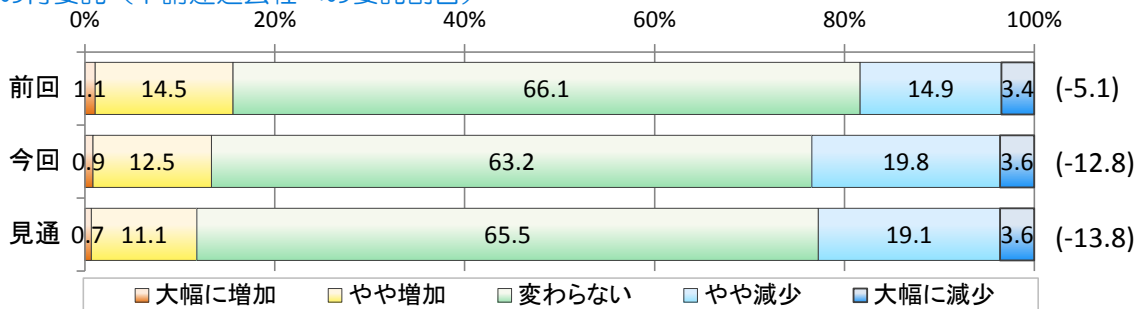
（注4）雇用状況については、上段は前回（H28.1月～3月期）の状況、中段は今回（H28.4月～6月期）の状況、下段は今後（H28.7月～9月期）の見通しを示しているが、前回及び今回は前年同期比ではなく「その期の状況」を、見通しは「前年同期比の見通し」を質問している。

■ 所定外労働時間



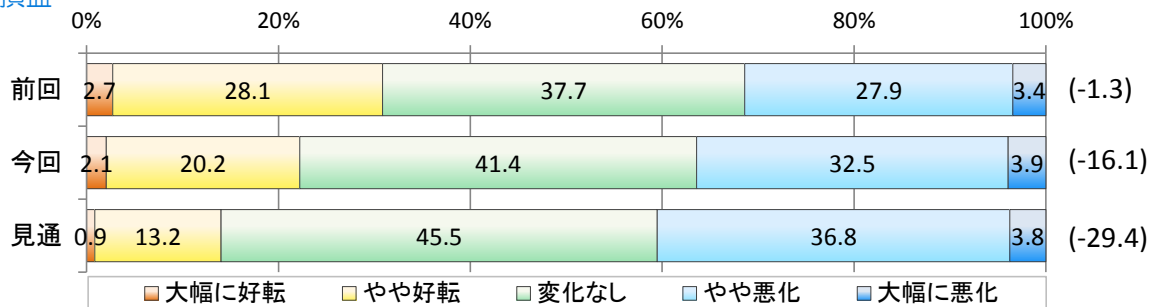
- ・前回より6.8ポイント減少した。
- ・今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。

■ 貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）



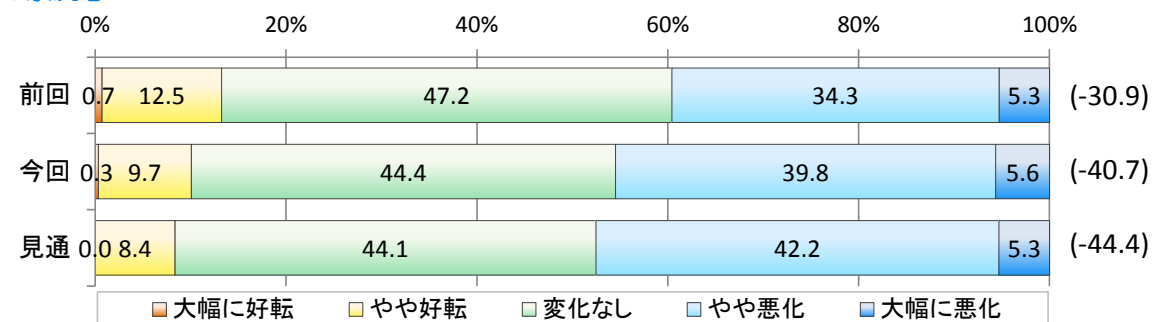
- ・前回より7.7ポイント減少した。
- ・今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。

■ 経常損益



- ・前回より14.8ポイント悪化した。
- ・今後は水準を下げる見込み。

■ 業界の景況感

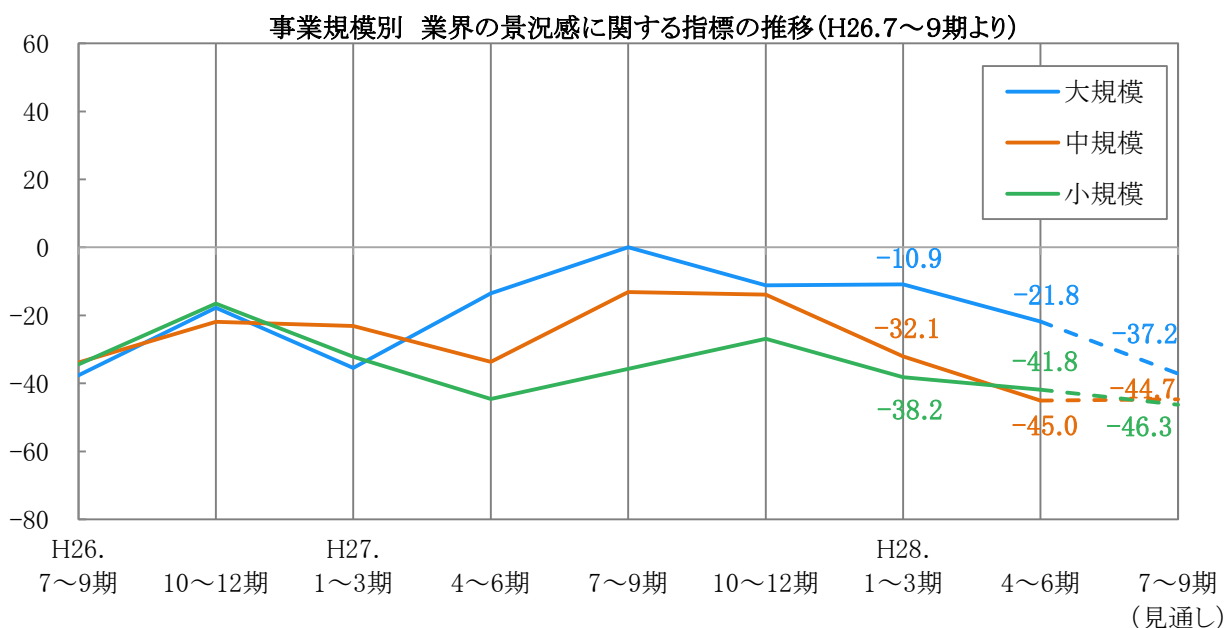


- ・前回より9.8ポイント悪化した。
- ・今後は水準を僅かに下げる見込み。

6. 事業者特性別の特徴

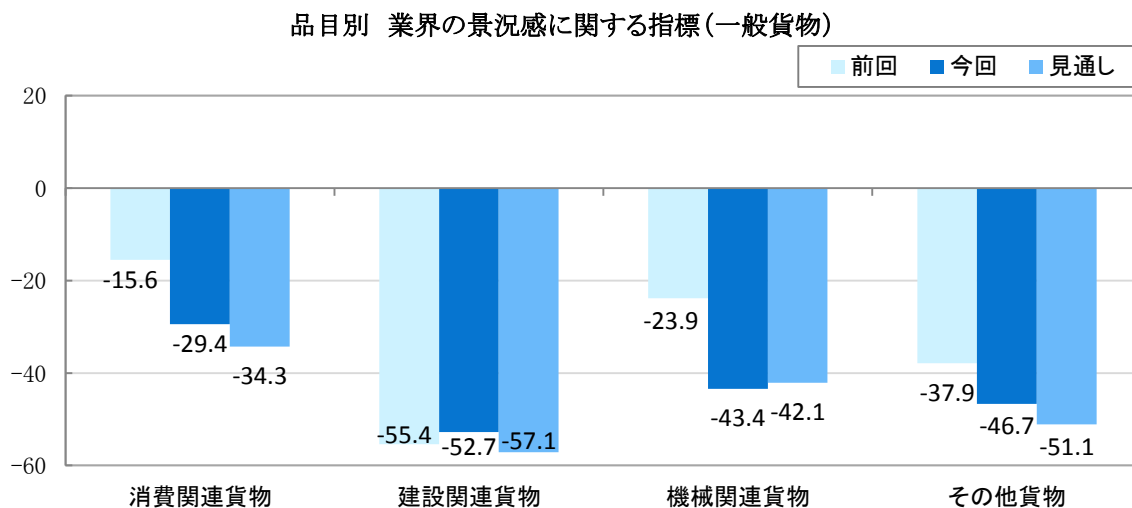
① 規模 (注5)

- ・事業規模別の景況感は前回と比べ、大規模事業者、中規模事業者は悪化、小規模事業者は僅かに悪化している。
- ・今後は大規模事業者は悪化、小規模事業者はやや悪化、中規模事業者においてはほぼ横ばいの見込みである。



② 品目 (注6)

- ・「消費関連貨物」を扱う事業者では、前回と比べ景況感水準を下げている、今後もやや下がる見込みである。
- ・「建設関連貨物」を扱う事業者では、前回と比べ景況感水準はほぼ横ばいであり、今後は僅かに下がる見込みである。
- ・「機械関連貨物」を扱う事業者では、前回と比べ景況感水準を下げている、今後はほぼ横ばいの見込みである。
- ・「その他貨物」を扱う事業者では、前回と比べ景況感水準をやや下げている、今後は僅かに下がる見込みである。



(注5) 規模別分類

大規模事業者：101両以上 中規模事業者：21両以上100両以下 小規模事業者：20両以下

(注6) 品目別分類

消費関連貨物：農水産品、食料工業品、日用品など

建設関連貨物：林産品、砂利、砂、石材、建設用資材、窯業品（セメント等）など

機械関連貨物：電気機械（家電含む）、輸送機械（自動車等）など

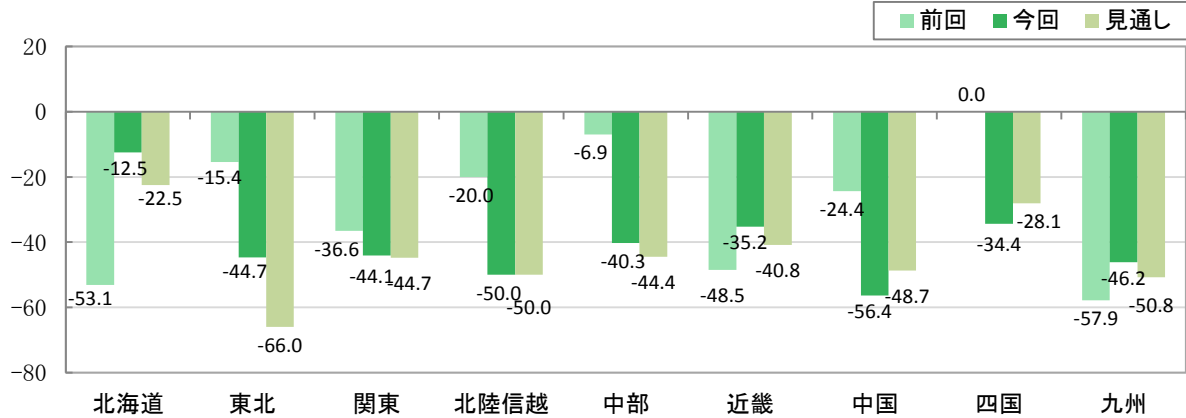
その他貨物：石炭、原油、石油、化学、紙・パルプなど

品目別業界の景況感に関する指標は、「一般貨物」の輸送品目について1位の回答を反映している。

③ 地域 (注7)

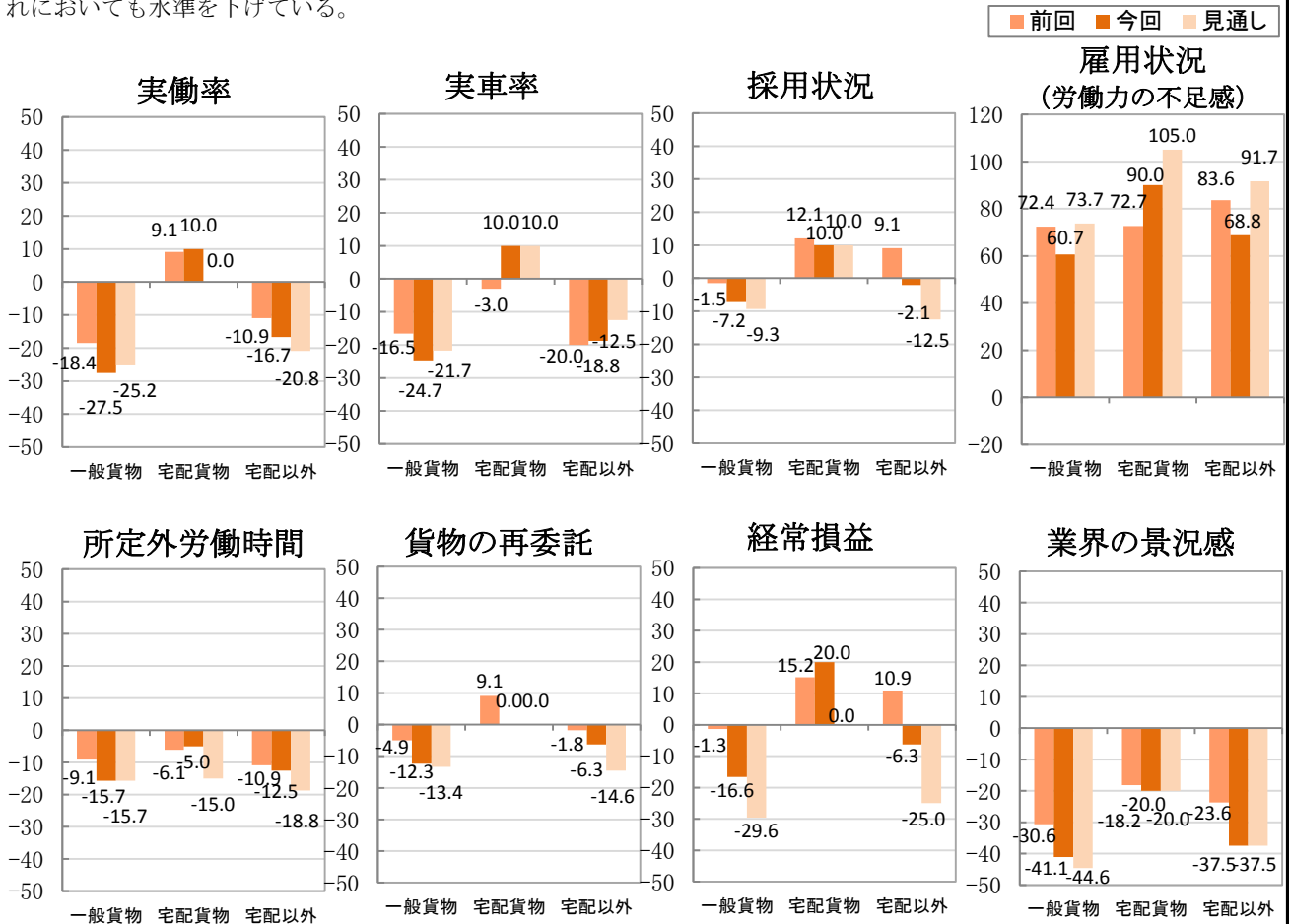
- ・一般貨物について業界の景況感を地域別にみると、北海道、近畿、九州においては水準を上げている。他方、それ以外の地域においては水準を下げている。
- ・今後は、水準を上げると回答している地域は中国と四国である。

地域別 業界の景況感に関する指標(一般貨物)



④ 事業形態別 (注8)

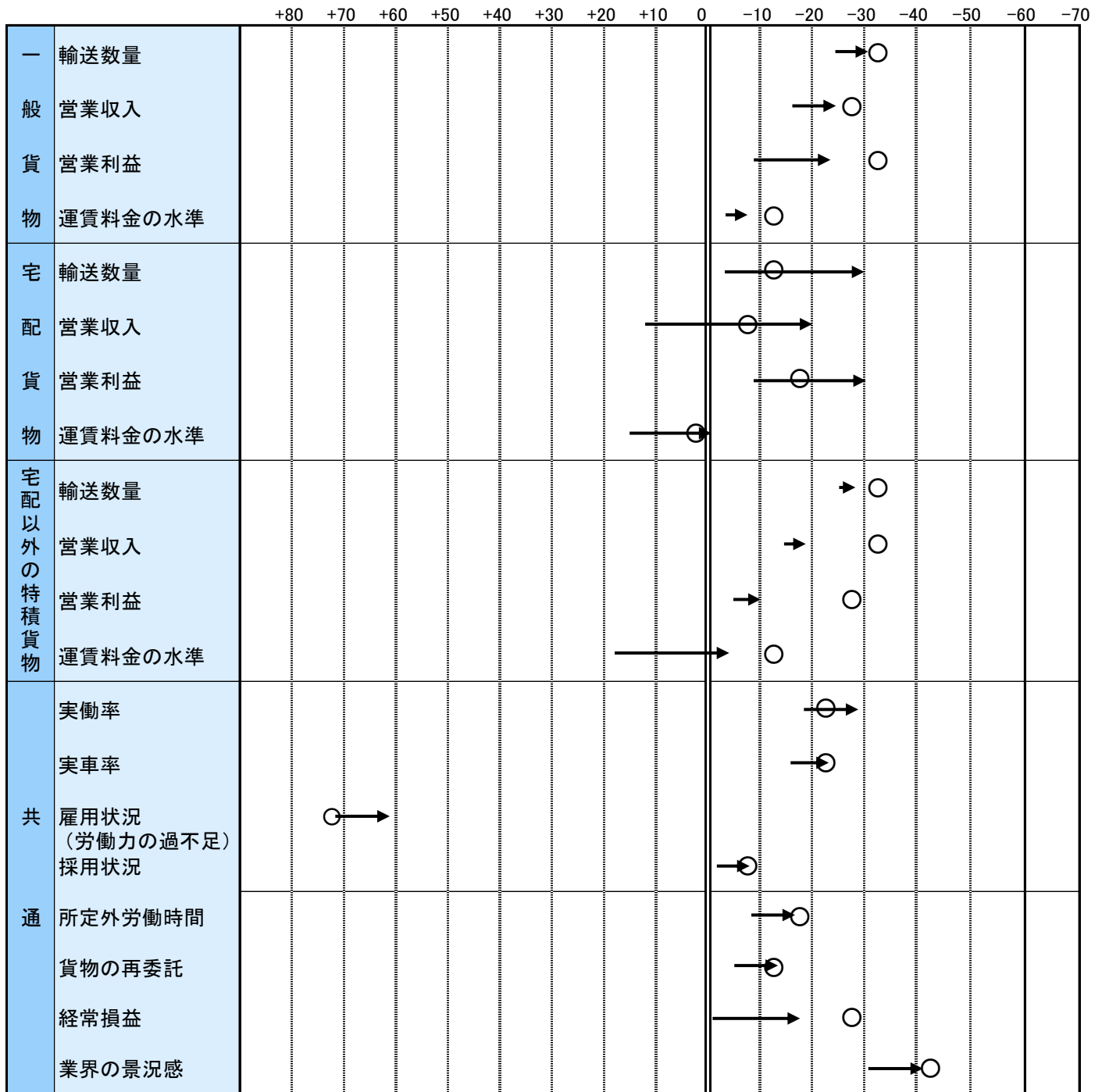
- ・事業形態別の景況感は、「一般貨物」「宅配以外」においては水準を下げ、「宅配貨物」においてはほぼ横ばいとなっている。またこの他の項目では、実働率については、「一般貨物」「宅配以外」で水準を下げている。雇用状況は、「宅配貨物」において不足感が強くなっている。貨物の再委託は、「一般貨物」「宅配貨物」「宅配以外」のいずれにおいても水準を下げている。



(注7) 地域分類は地方運輸局管轄地域区分に基づく。なお、グラフは一般貨物の事業者のみ集計している。

(注8) 事業形態の分類は、「一般貨物」及び「宅配貨物」「宅配以外の特積貨物」である。

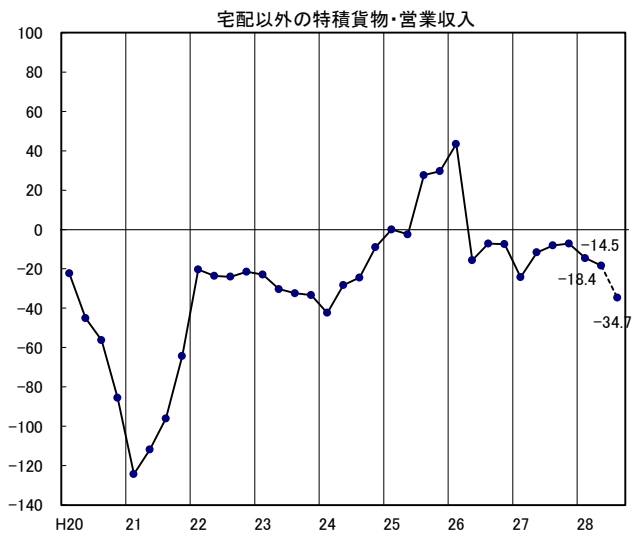
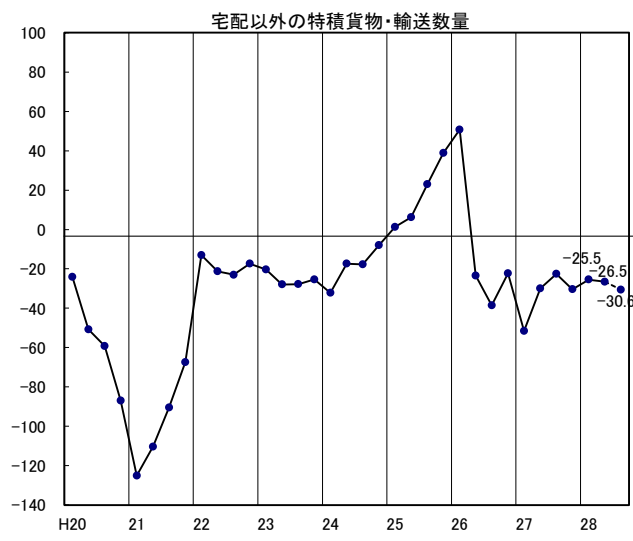
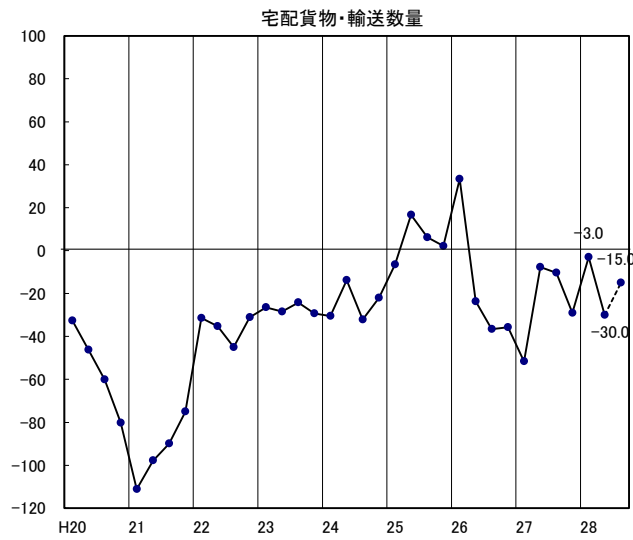
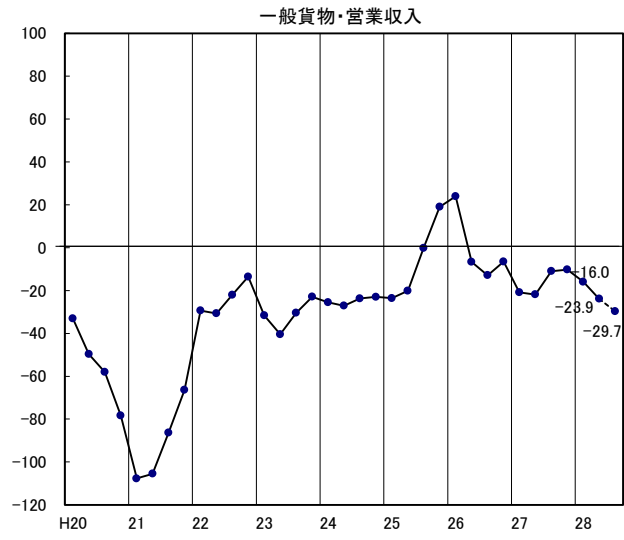
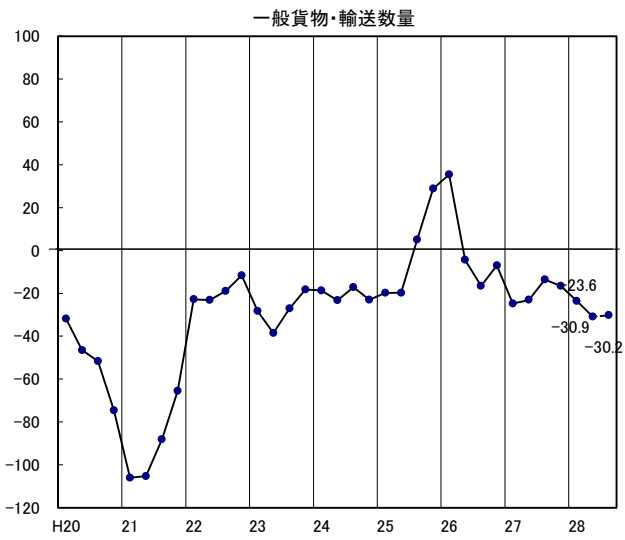
7. 業況判断指標の前回調査（平成28年1月～3月期）からの変化



凡例
 矢元：1-3月期の実績
 矢先：4-6月期の実績
 白丸：7-9月期の見通

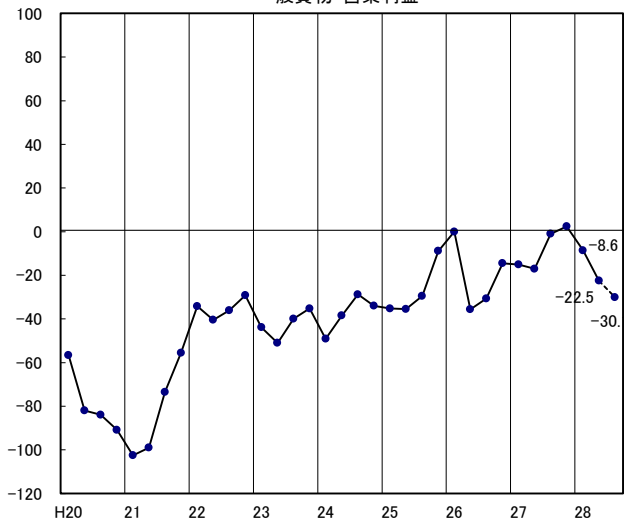
8. 業況判断指標の推移

平成20年～平成28年第3四半期見通し

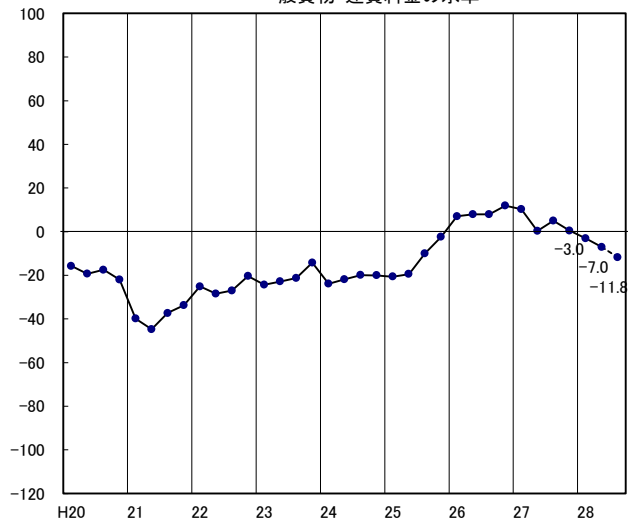


平成20年～平成28年第3四半期見通し

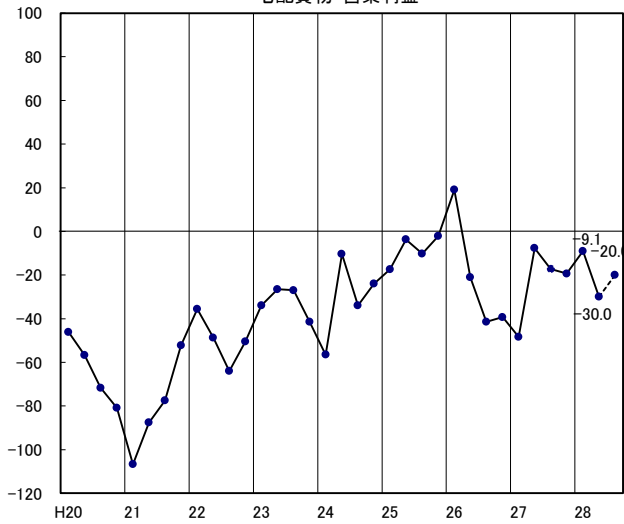
一般貨物・営業利益



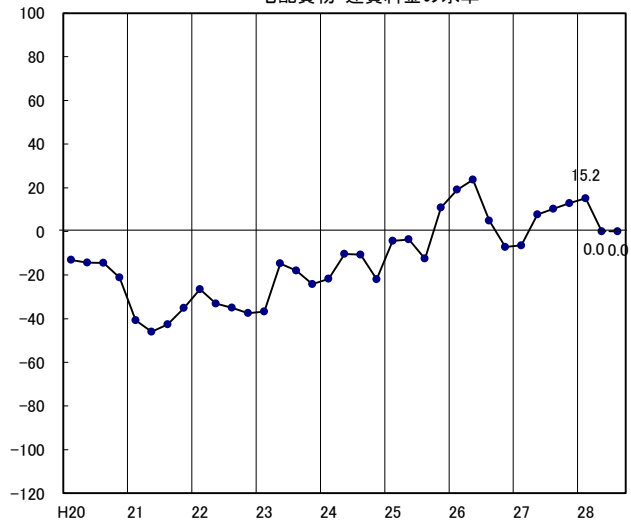
一般貨物・運賃料金の水準



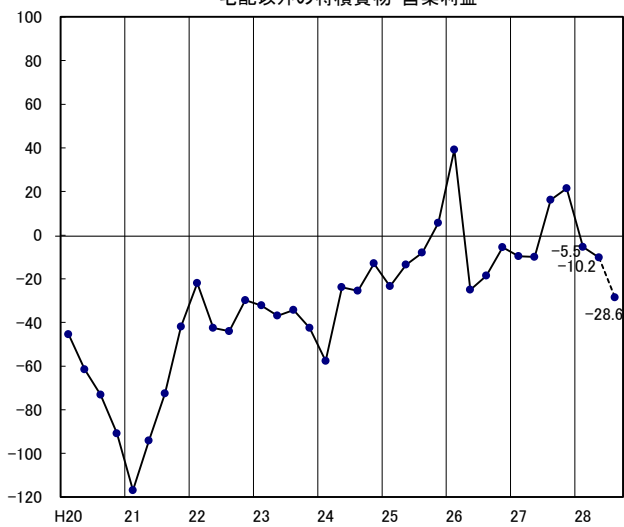
宅配貨物・営業利益



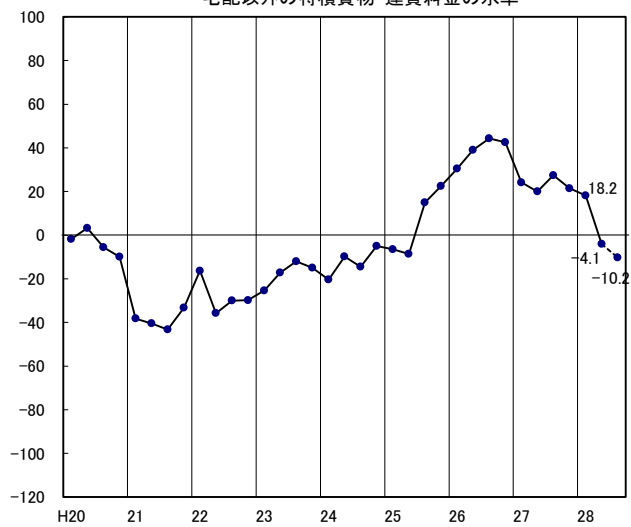
宅配貨物・運賃料金の水準



宅配以外の特積貨物・営業利益

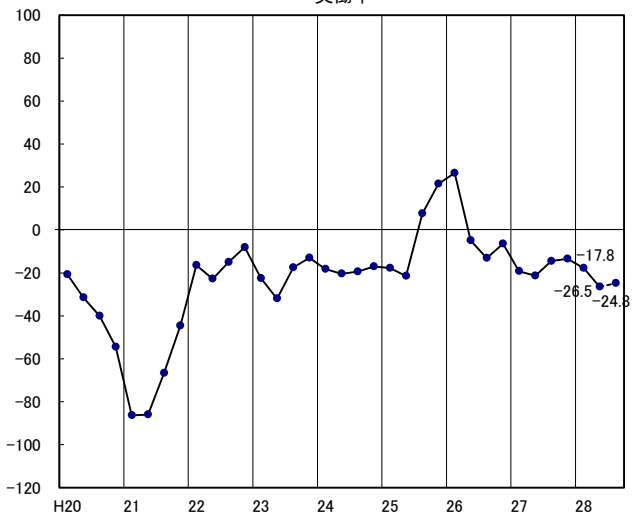


宅配以外の特積貨物・運賃料金の水準

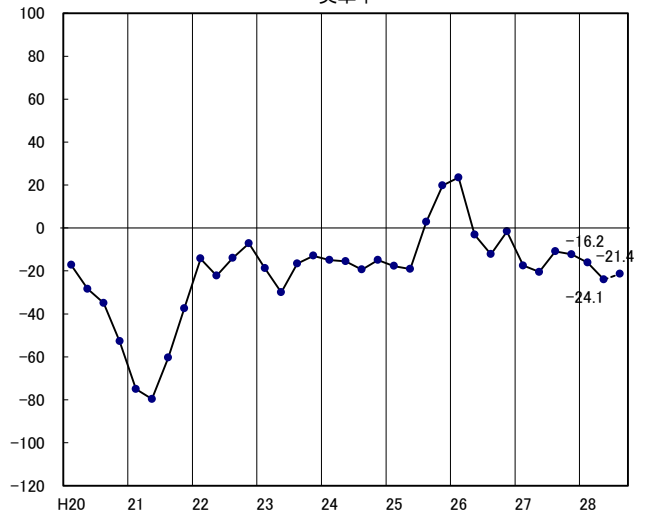


平成20年～平成28年第3四半期見通し

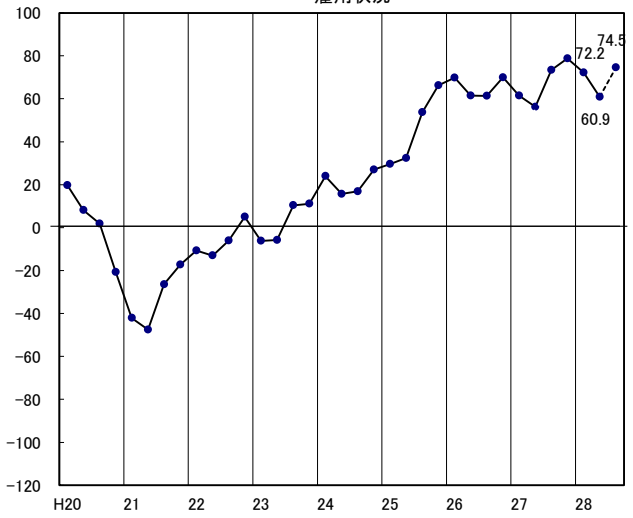
実働率



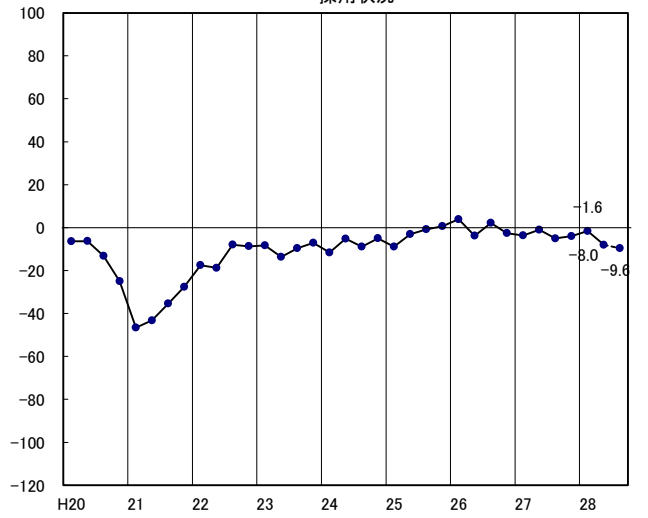
実車率



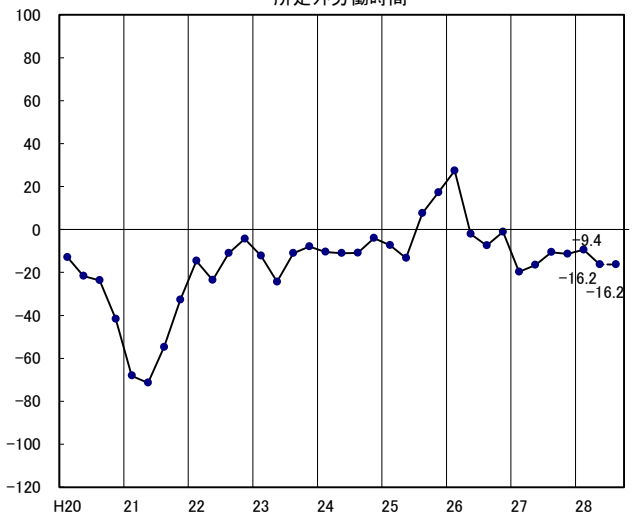
雇用状況



採用状況

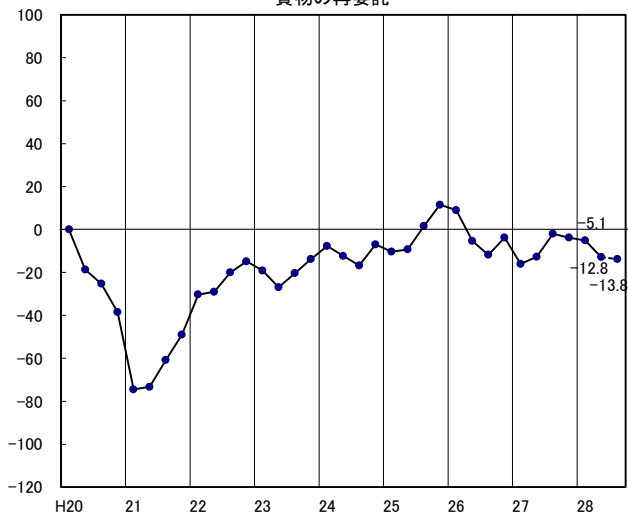


所定外労働時間

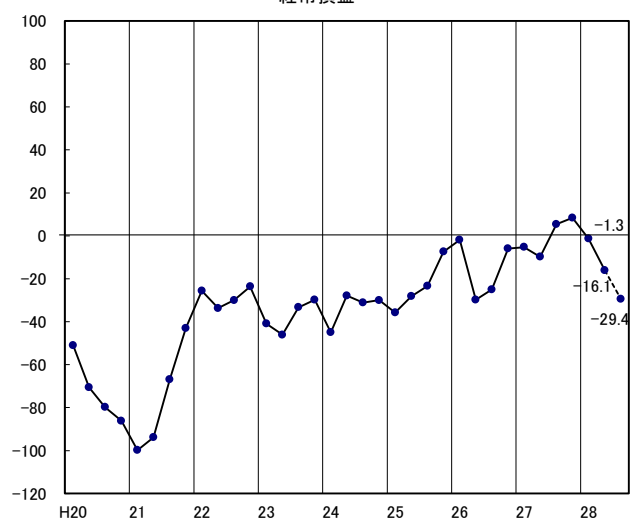


平成20年～平成28年第3四半期見通し

貨物の再委託



経常損益



業界の景況感

